



「がんと性(セクシュアリティ)」を考える アニメーション動画公開

社会全体で支援を進めるきっかけに

キャンサーネットジャパン

休眠預金活用事業の実行団体の一つ、特定非営利活動法人「キャンサーネットジャパン(CNJ)」(岩瀬哲理事長)は、アニメーション動画「したい？ する？ ～がんとセックス～」を制作した。がんやがん治療に伴う性的側面への影響を改善・軽減する方法や工夫があることを知ってもらおうと、特設サイト「もっと知ってほしい がんと生活のこと」の中で公開している。

CNJは休眠預金を活用した助成金事業として「がん患者の性生活(セクシュアリティ)～心と体に及ぼす性的側面のサポート～」に取り組んでいる。国内では情報が少ないがんと性の問題について、小児がんやAYA世代を含めたがん患者やパートナーに向けて、専門医の監修を受けた多くの情報を発信している。

がんやがん治療による性生活への影響について、無意識に諦めていたり、自分には権利が無いと思い込んでいたりしている患者は少なくない。そのため、自分にも権利があること、安心して相談できる窓口があることに気づく

きっかけにしてもらおうと動画を制作した。約4分の作品は、がんサバイバーのアヤカと恋人のユウキが「がん患者だから、セックスより命？」と疑問を抱き、ネット検索で調べたり、周囲の意見を聞

いたり、医師に相談したりと、がんと付き合い方を考える内容。昭和大学保健医療学部の渡邊知映教授が監修した。がん治療をしながら、あるいは、がんを克服して日常生活を送る人が増える中、当事者だけでなく、医療従事者をはじめ社会全体で理解を深め、支援していくことが重要だという。

CNJが2021年にがん患者らを対象にネット上で実施した調査では、がん治療に伴う性に関する困りごとや不安について、誰にも相談できなかったと回答した人は53.8%を占めた。また、がん患者のパートナーを含め9割以上の人が、がんとセックスに関する情報



CNJが制作したアニメーション動画より

や支援が不足している、と答えた。

CNJによると、「がん患者にとってセックスは二の次」「がんが治ったんだからセックスなんて贅沢」と考えてしまう人は多く、性的側面への影響を改善・軽減する方法や工夫に関する情報を得ようとする患者・パートナーは多いとは言えない状況。この動画によって、当事者が「自分ごと」として考え、医療従事者や社会が支援を強化していくきっかけにしたいという。病院のサイネージや、音を消して見ることを想定した字幕版もある。

特設サイト：<https://www.cancernet.jp/seikatsu/sexuality/>

動画：<https://youtu.be/3iPar7lOPf4>

字幕版：<https://youtu.be/1meL7oJCotQ>

がん相談ホットライン 03-3541-7830

毎日受け付けています

時間は当分の間、10:00～13:00 15:00～18:00

社会保険労務士による「がんと就労」電話相談の予約はインターネットの専用フォームで受け付けます。がん専門医による相談は今年度休止します

態勢縮小のため電話がつながりにくいことがあります。何卒ご了承ください



社労士による
電話相談